

# 平成 26 年度事業計画

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

## 1. 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

### (ア) 管轄事業

1. 生活支援センター
2. 相談支援（計画相談支援・一般相談支援）
3. 自律生活アシスタント

### (イ) 重点目標

平成 26 年度は、指定管理受託期間中 10 年の第 2 期（3～4 年）初年度になる。第 1 期で取り組んできた基盤作り、利用者サービス、地域関係機関とのネットワーク構築などをさらに強化していくことに加え、今年度からは、以下について取り組む。

- ① 登録者及び潜在的利用者のニーズを把握するための調査の実施
- ② 地域課題の調査・分析
- ③ 調査・分析に基づいた支援展開
- ④ 関係機関との連携による精神保健福祉に関する普及啓発活動
- ⑤ 家族会と連携、家族支援強化
- ⑥ 相談支援専門機関としての役割強化、専門家としての職員のスキル向上
- ⑦ アウトリーチ活動を強化、センター内業務とのバランスを考えた人員配置の工夫
- ⑧ 環境調整ができれば退院可能な方への地域移行支援（病院へのアウトリーチ）

### (ウ) 施設運営の具体策

- ① 安心の提供
  1. フリースペースによる交流  
利用者同士の交流、利用者と職員の信頼関係構築の場として活用する。  
時間を増やすことにより安心を感じて頂ける環境を作る。
  2. バースデーカードの送付  
虚無感や孤立感を感じてしまう人に対して社会とのつながりを感じて頂く一環として、職員が作成したバースデーカードを送り、ひとりではないという安心感を提供する。
  3. 安否確認  
利用登録時に確認した上で、その利用者が生活支援センターへの来館や連絡がない場合、安否確認のための電話連絡を行う。また、必要に応じて関係機関と連携して自宅訪問し安否確認を行う。

- ② 日常生活に対する支援
  - 1. 生活スキルの向上  
安定した日常生活を送ることが困難な方や不安を感じている方には、電話相談や職員の訪問により、地域生活のしづらさを軽減するための支援を行う。
  - 2. 食生活の提供  
夕食サービス（1食 400円）を利用者のニーズに合わせて実施する。希望者がいれば準備段階から手伝いをしていただき、生活スキル・社会スキル向上の機会として活用する。
  - 3. 就労に関する支援  
就労支援センターや区内就労支援事業所、区内にある既存のジョブネットワークを活かし、就労に関する支援を実施する。
- ③ 清潔の保持  
来館時の声かけや相談から生活状況の把握を行い、入浴・洗濯サービス（1回 100円）を活用しながら清潔の保持に向けた支援を行う。
- ④ 情報提供
  - 1. 他区生活支援センターの機関紙、利用者が利用可能な福祉サービスや地域の情報を掲示する。また、パソコンで情報処理・情報収集する方のために、インターネットサービス（10分 10円）を提供する。
  - 2. 毎月1回、センター便りを発行することにより、利用者・地域関係機関に向けて鶴見区生活支援センターの情報発信を行う。
- ⑤ 相談支援  
ケアマネジメント手法に基づく個別支援を重要視し、利用者の必要に応じて個別支援計画を作成し、支援にあたる。支援方法としては、アウトリーチの考え方を軸に、面接・電話相談対応をした中から、必要時には積極的に同行・訪問支援を行う。
- ⑥ 地域交流
  - 1. ネットワーク強化  
計画第1期の期間中の中で、鶴見区自立支援協議会の再組織化に尽力した。その中で、権利擁護部会・生活支援部会・相談部会を区役所・関係機関と協力し組織化した。各部会に職員を1名ずつ配置している。26年度は、このネットワークを継続しながら、インフォーマルに取り組んでいる区内精神保健福祉勉強会を自立支援協議会の中に位置づけ、障害領域の枠を超え幅広い関係者がともに成長できる場にすべく形にしていく。
  - 2. 地域支援事業の活用  
これまで同様に地域支援事業を活用し、地域の方々が参加しやすい事業

を開催する。参加する中で、精神障害を持つ方々と地域の方々が同じ時間を共有する機会を設け、体験に基づく精神障害者の正しい理解ができるよう支援する。

### 3. 地域課題の調査・分析

鶴見区は、鶴見駅を中心に海側と山側で街並みや住環境の違いが顕著である。26年度の重点目標のひとつである地域課題の把握に関し、自立支援協議会を活用し、調査・分析を実施する。そして、課題解決に向けた取り組みを、地域住民、関係機関と連携しながら実施する。

## ⑦ 家族支援

### 1. 鶴見区家族会「のぞみ」との協働活動

これまで、鶴見区生活支援センター内における家族による家族相談会や家族会での講演活動、バスハイクなどのレクリエーションを協働で実施してきた。これらの協働活動をさらに強化する。

### 2. 出張相談会の企画実施

地区センターや地域ケアプラザなどの場所を借り、高齢のために来所相談が困難なご家族等に対し出張相談会を企画実施する。

### 3. 鶴見区家族の要望調査と分析

家族会会合には、担当職員が定期的に参加している。この関係性を継続しながら、家族が持つ多様な要望やニーズを生々の声を基本に、アンケートやご意見BOXの活用などにより調査と分析を実施する。この結果を、今後の家族支援に活用する。

## ⑧ ピア活動支援

### 1. ピアグループの育成

鶴見区生活支援センターでは、ピア活動支援の一環として女子会クレアやスポーツサークルなどのグループ形成支援を行ってきた。26年度は、グループの主体性向上を促すよう支援展開を行い、ピアグループの育成に担当職員を配置し支援していく。

### 2. ボランティア活動支援

これまでに、利用者や地域住民のボランティアを積極的に受け入れている。人数が増えてきている中での課題を振り返り、ボランティア活動がしやすい環境を整備していく。

### 3. 専門団体との協働活動

横浜当事者研究会、WRAPファシリテーターと連携し、ピア活動に関する研修会やワークショップを実施していく。

## ⑨ 人材育成・精神保健福祉士実習生の受け入れ

### 1. 鶴見区生活支援センターでは、センター内勉強会などの開催、区内外の

各種研修会への参加を通じて、専門家としての質の向上に努めてきた。これらを継続しながら、外部での発表機会を設け、職員の資質向上をさらに図っていく。

2. 精神保健福祉の養成校と連携し、将来支援に携わる希望を持つ学生の育成のため、26年度も積極的に実習生を受け入れていく。実習生には、区内関係機関とも連携しながら、多種多様な社会資源を知る機会を提供する。

#### ⑩ 施設の管理運営

##### 1. 個人情報保護

- (ア) 個人情報保護に関する勉強会をセンター内で行い、日常的支援・電話対応、記録の取り扱いなど、個人情報を保護する基本的な決まり事を職員間で徹底する。
- (イ) マニュアルを作成し、随時見直しを行い、職員誰もが自己点検できるようにする。
- (ウ) パソコン等データベース関連は、法人の規定に基づいた個人情報保護を遂行する。

##### 2. 安全対策

センター内で作成したハザードマップを活用し、職員が可能な限りフリースペースにいる時間を増やし、マップで定めた危険な場所を職員全員が意識する。

##### 3. 事故防止体制・緊急時対応

- (ア) 安全管理委員会を組織し「安心は何事にも優先する」という意識を持ち、毎月1回ヒヤリハット事象の内容把握、原因追究、対応策の立案を職員一体となって行う。
- (イ) 必要に応じて安全管理マニュアルの改訂を行う。
- (ウ) 緊急時対応に関しても職員間で意識共有し、的確な対応ができるようにする。

##### 4. 苦情解決・利用者アンケート

- (ア) 利用者からの苦情・要望は、「生活支援センター運営改善への最重要な提言」と捉え利用者満足度向上委員会を設置し対応する。
- (イ) サービス向上のための貴重な情報源として、利用者からのアンケート、家族会の会合、ご意見BOX、第三者委員からの意見などを職員で毎月1回ミーティングを行い共有し、改善対策に役立てる。

#### ⑪ 自立生活アシスタント事業

事業の周知と地域のニーズ把握を進め、関係機関との情報・意見交換を継続し、新規利用者を増やしていく。

⑫ 横浜市精神障害者地域移行・地域定着支援事業

26年度も対象となる医療機関との連携強化を図りながら、当事者・家族・支援者への普及啓発活動や対象ケースの発掘を行い支援展開していく。

(工) 指定特定相談支援事業（計画相談支援事業）

ケアマネジメントの手法に基づき、利用者ニーズに沿った個別支援計画を策定し、リカバリーを追及する。担当職員の質の向上を高めることと併せて、求められる利用者数に対応できるよう、適切な人員配置を行うように努める。

(才) 指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着支援事業）

区役所・医療機関と連携を図りながら権利擁護の視点を重視し、本人のニーズに基づきながら退院に向けた支援を展開する。

平成26年度横浜市精神障害者生活支援センター収支予算書

施設名：横浜市鶴見区生活支援センター

【収入】

(単位：千円)

科目	金額				内訳・説明等
	計	生活支援 センター運営	地域移行・ 地域定着	自立生活 アシスタント	
指定管理料	67,600	46,576	10,402	10,622	
<b>合計</b>	<b>67,600</b>	<b>46,576</b>	<b>10,402</b>	<b>10,622</b>	

【支出】

科目	金額				内訳・説明等
	計	生活支援 センター運営	地域移行・ 地域定着	自立生活 アシスタント	
<b>人件費</b>	<b>56,618</b>	<b>36,154</b>	<b>10,097</b>	<b>10,367</b>	
所長	8,530	8,530	0	0	本給、諸手当、賞与
常勤職員	25,680	8,000	8,750	8,930	本給、諸手当、賞与
非常勤職員	9,700	9,700	0	0	本給、諸手当、賞与
アルバイト	2,350	2,350	0	0	無休化対応職員
調理アルバイト	2,350	2,350	0	0	1日2名体制
嘱託医賃金	968	968	0	0	月4回×12ヶ月
法定福利費	5,310	3,200	1,010	1,100	社会保険、労災保険、雇用保険等
退職給与引当金	1,250	770	240	240	市退協掛金、福祉医療機構掛金
福利厚生費	60	36	12	12	ハマフレンド
労務厚生費	420	250	85	85	職員検診料
<b>施設管理費</b>	<b>5,520</b>	<b>5,520</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
光熱水費	2,500	2,500	0	0	
庁舎管理	2,820	2,820	0	0	設備点検保守、清掃委託料
修繕積立金	200	200	0	0	
<b>入浴サービス等実費徴収額</b>		<b>60</b>			
<b>運営費</b>	<b>4,792</b>	<b>4,232</b>	<b>305</b>	<b>255</b>	
旅費	500	250	150	100	出張旅費
消耗品費	980	980	0	0	事務消耗品等（防災備蓄を含む）
印刷製本費	110	100	5	5	パンフレット、封筒、ハースデーカード、名刺等
修繕費	300	300	0	0	各所小破修繕
通信運搬費	790	590	100	100	有線電話、携帯電話、切手代等
賃借料	712	712	0	0	OA機器・車輛リース料、車両燃料代
備品等購入費	400	400	0	0	自主事業、行事費等
保険料	200	200	0	0	施設の総合保険料、車輛保険料
雑費	800	700	50	50	研修費、諸会費、燃料代、器具什器等
<b>事業費</b>	<b>270</b>	<b>270</b>			
地域支援事業	270	270			
宿泊支援事業	0	0			
その他の事業	0	0			
<b>本部繰入金</b>	<b>400</b>	<b>400</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	労務管理、会計チェック、外部監査指導料
<b>合計</b>	<b>67,600</b>	<b>46,438</b>	<b>10,402</b>	<b>10,622</b>	